

茨木市立 庄栄小学校 茨木っ子グローイングアップ計画

令和元年10月作成

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	保幼小中での年齢差のめざす子ども像を共通理解し、子どもの発達課題に合わせた実践を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 保幼小中合同授業研(庄栄小) それぞれの発達段階の理解 授業研、公開保育などへの参加 行事交流、授業参観 部活動体験・体験授業 授業スタンダードの交流 中学校区保幼小中連携カリキュラムの活用・給食交流会 中学校教員による出前授業 小中交流会 	<ul style="list-style-type: none"> 保幼小中合同授業研(三島小) 学力保障につながる授業作り 平成29年度の取組みの継続・見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 保幼小中合同授業研(三島中) 学力保障につながる授業作りの検証・改善 平成30年度の取組みの継続・見直し 中学校区保幼小中連携カリキュラムの見直し
確かな学力の育成	豊かな表現力を育てる	<ul style="list-style-type: none"> 算数科を通して豊かな表現力を育てる。 模擬授業を中心とした教材研究・研修会(算数科) 問題解決的な学習 班活動・ペア活動 「聞き方」「話し方」名人 ミニ学習会での職員のスキルアップ・ノート指導の研究・ICT活用 図書館と連携した読書活動 読書タイム 読み聞かせ 	<ul style="list-style-type: none"> 教科を通して豊かな表現力を育てる。 29年度の総括を生かして授業を中心とした教材研究・研修会 問題解決的な学習 班活動・ペア活動 「聞き方」「話し方」名人の改良 ミニ学習会での職員のスキルアップ・ノート指導の研究・ICT活用 図書館と連携した読書活動 読書タイム 読み聞かせ 	<ul style="list-style-type: none"> 教科を通して豊かな表現力を育てる。 30年度の総括を生かして授業を中心とした教材研究・研修会 問題解決的な学習 班活動・ペア活動 「聞き方」「話し方」名人の改良 ミニ学習会での職員のスキルアップ・ノート指導の研究・ICT活用 図書館と連携した読書活動 読書タイム 読み聞かせ
豊かな人間性を育む	豊かな人間関係づくり くもつと知ろう自分のこと友だちのこと	<ul style="list-style-type: none"> 異学年交流(児童会「七夕朝会」・あそびんぴつく・低中高学年での運動会の取り組み・体育委員会「おにごっこ大会」・クリーン作戦・応援団) 平和学習(修学旅行など) 国際理解教育(保護者と連携して) 道徳の研究授業と校内研修会 ひまわり学級との交流会 いのちの学習(保健室と連携して) あいさつ運動(三島中と連携して) 実態交流会・ケース会議 	<ul style="list-style-type: none"> 異学年交流(児童会「七夕朝会」・あそびんぴつく・低中高学年での運動会の取り組み・体育委員会「おにごっこ大会」・クリーン作戦・応援団) 平和学習(修学旅行など) 国際理解教育(保護者と連携して) 道徳の研究授業と校内研修会 ひまわり学級との交流会 いのちの学習(保健室と連携して) あいさつ運動(三島中と連携して) 実態交流会・ケース会議 	<ul style="list-style-type: none"> 異学年交流(児童会「七夕朝会」・あそびんぴつく・低中高学年での運動会の取り組み・体育委員会「おにごっこ大会」・クリーン作戦・応援団) 平和学習(修学旅行など) 国際理解教育(保護者と連携して) 道徳の研究授業と校内研修会 ひまわり学級との交流会 いのちの学習(保健室と連携して) あいさつ運動(三島中と連携して) 実態交流会・ケース会議
健康・体力の増進	いろいろな運動を経験して、 楽しむ心を育てる	<ul style="list-style-type: none"> 茨木っ子運動(運動会) マラソンタイム なわとび・てつぼう・マラソンカード ミニ研修会の実施 体育用具の整備・充実 保健委員会・給食委員会の活動 保健や給食だよりによる生活習慣の改善 	<ul style="list-style-type: none"> 茨木っ子運動(運動会) マラソンタイム なわとび・てつぼう・マラソンカード ミニ研修会の実施 体育用具の整備・充実 保健委員会・給食委員会の活動 保健や給食だよりによる生活習慣の改善 	<ul style="list-style-type: none"> 茨木っ子運動(運動会) マラソンタイム なわとび・てつぼう・マラソンカード ミニ研修会の実施 体育用具の整備・充実 保健委員会・給食委員会の活動 保健や給食だよりによる生活習慣の改善
支援教育の充実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|------------|---------------|
| ①話すこと・聞くこと | 課題が残る結果であった |
| ②書くこと | やや課題が残る結果であった |
| ③読むこと | 課題が残る結果であった |
| ④言語事項 | 課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 課題が残る結果であった |
| ②短答式 | 課題が残る結果であった |
| ③記述式 | 課題が残る結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

正答率をもっとも高かったのは「知りたいことを調べるために、選んだ本の目次の一部から適切なページを選ぶ問題」、もっとも低かったのは「漢字を使って書き直す問題」であったが、無解答率が少ないのも漢字の問題である。

無解答率が最も高かったのは「思いや考えに着目して心に残ったことを書く問題」である。

分析

正答率が高かったのは、読む領域の「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」や「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む」であった。その他、選択式の問題形式のほうが、正答率が高かった。

一方、今回の調査において正答率が低かったのは、書く領域の「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」や伝統的な言語文化と国語の特質に関する領域の「漢字を文の中で正しく使う」であった。このことから、文章の要旨を読み取り、そこから自分の考えをまとめ、表現することを苦手としていると考える。また、漢字については、無解答率の低さから、日々の漢字学習が解答への意欲を高めていると考えられる。しかし、解答率が低い問題もあることを考えると、漢字と言葉の意味のつながりを重視した漢字学習を今後積み上げていくことが大切であると考えられる。

今後は学習で得た知識を貯めていくのではなく、書いたり、発表したりするなど、知識を使って表現する活動を積み上げていく必要があると考える。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|-------|-------------|
| ①数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ②量と測定 | 概ね良好な結果であった |
| ③図形 | 概ね良好な結果であった |
| ④数量関係 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

もっとも正答率が高かったのは「棒グラフからわかることを選ぶ問題」であり、もっとも低かったのは「除法の計算の仕方について記述する問題」であり、無解答率も高かった。無解答率が低かったのは「台形を選ぶ問題」や「棒グラフから読み取って書く問題」、「減法の計算をするとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く問題」であり、無解答の児童はいなかった。

分析

無解答率の全国平均からすると、本校は無解答率が下回っており、算数の問題に対する解答意欲が高いことがわかる。

正答率が高かった問題は、図形領域の「台形についての理解」や数量関係領域の「棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る」であった。図形やグラフなど、具体物がある問題が得意といえる。

正答率が低かったのは、数と計算領域の「計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質の記述」であった。計算問題の正答率と照らして考えると、計算の仕組みを理解せずに、計算の仕方を覚えている児童が多いことが伺える。

その他、正答率が低い問題は記述式の問題が多いことから、自分の考えを整理し、表現することが課題である。

今後は、普段の学習の中で、数学的な知識を基にして、自分の考えをまとめて、記述したり、発表したりする取り組みを、低学年から積み上げていく必要がある。また、形式的に覚える学習ではなく、既習事項を活かして、新しく出会う問題に向き合うことが、計算の仕組みの理解や数学的な考え方を高めていくと考える。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・国語の平均正答率は、年度により多少の上下はあるが、今年度は課題が残る結果となった。無解答率も高く、国語への苦手意識を感じ取れる。
- ・算数は、これまでの年度と比べて、多少の上下はあるが、概ね良好な結果である。また、無解答率は低く、算数への学習意欲は高まっていると考える。問題解決型の学習効果が積み上げられているのではないかと。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・国語は学力高位層が減り、低位層が増えた。
- ・算数の学力高位層は、例年通りであるが、中位層の割合が減少し、低位層が増えた。
- ・国語、算数ともに、学力の底上げが必要である。
- ・エンパワー層は年度によってばらつきはあるが、今年度は国語、算数ともに割合が高くなっている。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

① 授業力の向上、改善をはかる。

- ・模擬授業を基本とした、授業研究、校内研究授業、校内研修会、実践交流などを通して、各教員の授業力を高める。また、ミニ研修を随時行い、多様な学びの形態を習得しあう。
- ・学びあいを通して基礎学力の向上や、思考力・判断力・表現力を高めていく。そのために、話し合いや教えあいの活動を充実させ、共に学びあえる学習環境を整えていく。
- ・授業の中で、自分の意見や考えを述べ、他者の意見を聞き取り、比較し、練り上げる「問題解決的な活動」をより多く取り入れる。
- ・「話し方名人」「聞き方名人」「ふりかえり名人」など、学習の基礎となることを低・中・高学年別に設定し、教室に掲示する。6年間を通じて系統立てた、話す力や聴く力の育成を目指し、今後も子どもの実態に即した共通実践の設定や、検討、検証を進めていく。

② 主体的に学べる学習集団の育成

- ・学習の中で「めあて」と「ふりかえり」を位置づけることで、その時間に学べたことや、苦手としていることなどに、子どもたち自身で気づけるようにする。
- ・子どもたちが「なぜ?」「どうして?」と思えるように、児童の生活に即した問題の提示や、既習事項と新規学習事項の違いを比較し、「問題を解いてみたい」「挑戦してみたい」という気持ちを持たせる授業づくりを進めていく。
- ・苦手な学習であっても、頑張る挑戦する励ましや声掛けをすることを、家庭にも協力を呼び掛ける。

③ 基礎的な学力の育成をはかる

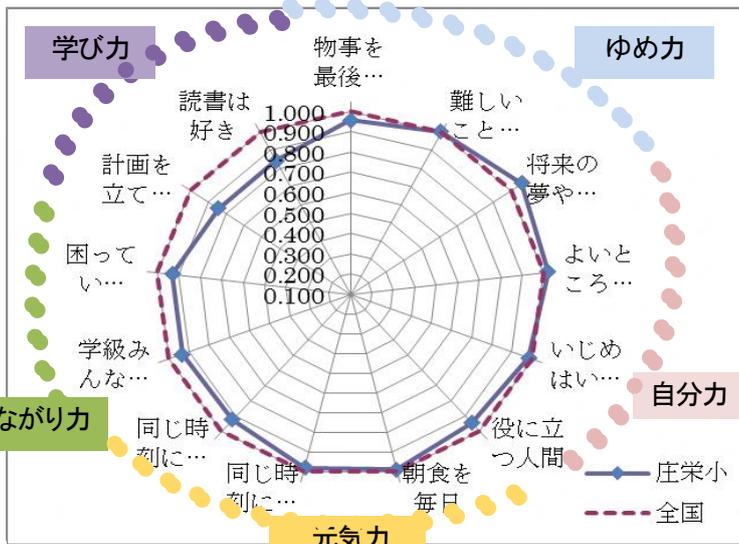
- ・文章問題などを図式化して、イメージ化しやすい方法を練習し、習得させる。
- ・単元や子どもたちの実態に応じ、習熟度別分割、単純分割、T・T等の授業形式を選択し、授業を進める。
- ・夏休みの読書感想文などを活かして、書くことや気持ちを表現することの学習に取り組む。
- ・休み時間や放課後の個別指導を続け、きめ細やかな指導を続ける。
- ・毎日の家庭学習を習慣づけ、家庭にも協力を呼び掛ける。

④ 読書活動の充実

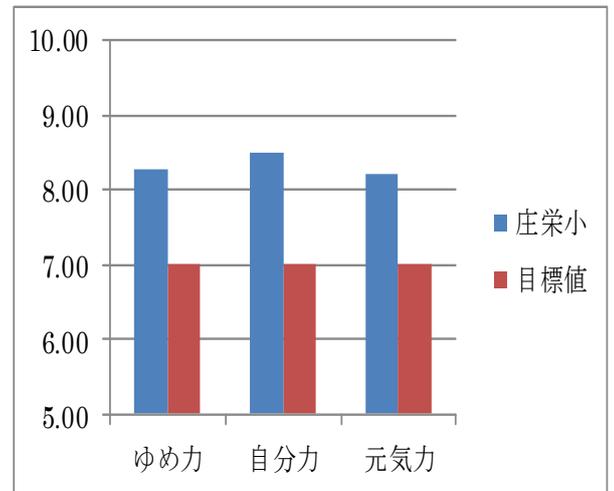
- ・読書タイムの実施。読書ボランティアによる読み聞かせなど、本との出会いを充実させる。
- ・本校に隣接している庄栄図書館との連携した取り組みを進めていく。
- ・図書館支援員との連携のもと、足を運びたい図書室の環境設備を行うと同時に、各教科と連携した、読み物の紹介等「本を手にとろうとする」きっかけづくりの取り組みを一層推進していく。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較レーダーチャートは13項目、目標値との比較棒グラフは、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

- 「ゆめ力」の「将来の夢や目標」や「難しいことでも挑戦」する力は、全国を上回っており、物事に対して前向きに取り組んでいく姿勢が高いことが伺える。
- 学校以外の1日当たりの勉強時間は30分以上～1時間未満が最も多く、学校以外の勉強時間が短いことわかる。また、計画的に勉強に取り組んでいる児童の割合も低い。将来の夢や目標を持っている児童は多いので、夢や目標から計画を立てて勉強する力を育てていく必要がある。
- 読書に対しては、読書好きな児童は多いが、授業以外の読書時間は10分以上～30分未満、または全くしていない児童が多く、読書の習慣づけを行っていく必要がある。
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、考えを深めたり広めたりできているかについて、話し合い活動の良さを実感できていない児童が全国平均より多い。

取組み

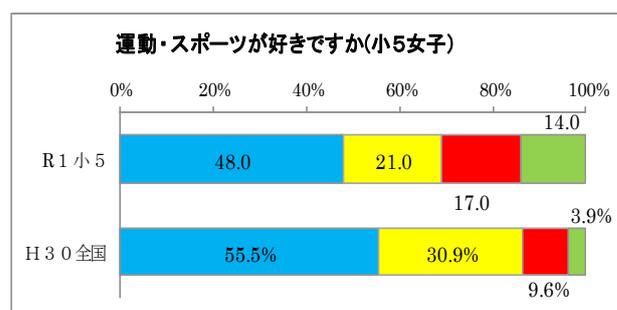
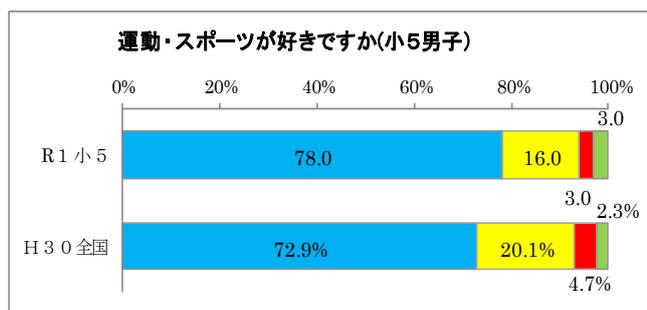
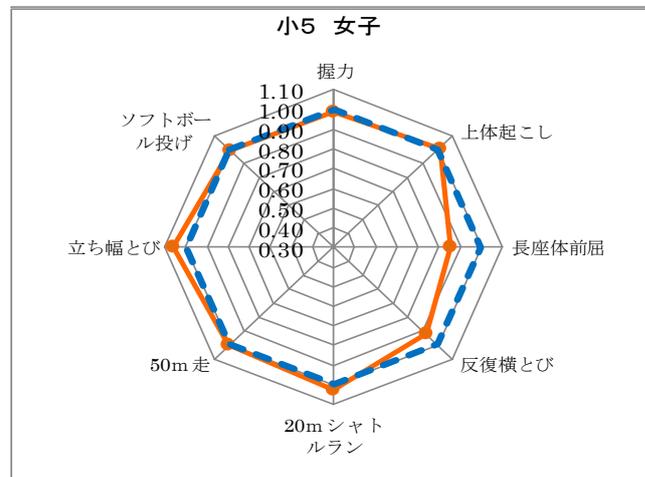
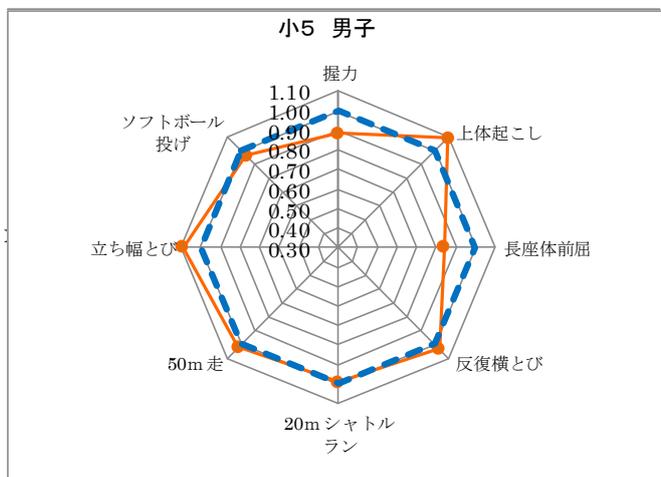
- 自ら計画的に学習する力を育てていく必要がある。そのために家庭と協力し、低学年時から日々学習する習慣を定着させ、児童を励ましなが、自ら学びたい、調べたいという、学習への前向きな気持ちを育てていく。また、自主学習などを通じて、計画的に学習する力をつけていく。
- 読書月間や読書感想文、保護者の読み聞かせボランティアを通じて、読書への興味関心を持ってもらい、児童自身で本を手取る習慣をつけていく。
- 地域の様々な団体と協力して、各家庭や子どもたちへの関りをつなげる機会を多くしていく。
- 引き続き、「将来の夢や目標」「難しいことでも挑戦」することを大切にした、学級づくりや授業づくりを行っていき、何事にも前向きに挑戦していく児童を育てていく。また、話し合い活動の場を積極的に設けて、児童どうしで問題を解決したり、取り組みを行ったりして、自分たちでできたという達成感を持たせ、児童どうしが、つながることへの肯定感を高めていきたい。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子 (小5)

女子 (小5)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

- ・男女ともに長座体前屈が大きく全国平均より下回っている。→柔軟性に大きな課題
- ・男子は握力とソフトボール投げが全国平均より下回っている。
- ・女子は反復横とびが全国平均より下回っている。
- ・運動が好きという割合は、男子は全国平均より上回っているが、女子は下回っている。女子の運動離れが顕著に表れている。

取組み

- ・柔軟性が低いことから、補強運動時にその時間行う運動に適した柔軟体操を積極的に行う。
- ・握力向上に向けて「グーパートレーニング」を補強運動時に取り入れる。
- ・ボールに自分の力を伝えられていない児童が多いため、低学年から投げ方の学習を楽しんでできるような工夫を取り入れる。
- ・上る・握る・回るなど、遊具を使ったサーキット運動を取り入れる。
- ・いろいろなボールに触れる機会を増やすため、各学級に3種類のボールを配布し、休み時間にもボール運動ができるようにする。
- ・いろいろな動き方を身につけるために、授業のなかでよりラダーを活用する。
- ・マラソンタイムなど、持久走を継続的に行い、持久力をさらに伸ばす。